ふくしきらり人。

吉田 知良（よしだ ともよし）さん

社会福祉法人木犀会　ひまわり館・ひまわりキッズ館

笠間市にある、ひまわり館･ひまわりキッズ館は、障がい児者や高齢者の社会的自立をサポートする社会福祉法人木犀会が運営する事業所です。

ひまわり館では家庭で生活する障がい者の自立性の向上と社会参加の促進のため、入浴・給食・送迎等の介護、日常生活訓練、室内作業やレクリエーションを通して生きがいのある生活の援助に取り組んでいます。ひまわりキッズ館は放課後デイサービスの施設で、就学児から高校３年生の障がい児の放課後の活動支援・生活訓練を行なっています。吉田知良さんは、同施設の生活支援員・児童支援員として障がいのある方に寄り添い、利用者の日々の成長に喜びとやりがいを感じています。

障がい児施設での実習で、楽しさを感じた

吉田さんは、茨城キリスト教大学で福祉を学びました。「実習で障がい児施設に行き、障がい児と触れ合うことが楽しかったので、その後もボラン

利用者が目標を達成した時、自分も嬉しくなる。

ティアで障がいのある子どもたちといっしょに遊んだり、サッカーをしたりしていました」。卒業後に同施設に就職し、今年で８年目になります。現在の仕事の内容は、ひまわり館では日常生活の支援や作業のサポート、レクリエーションの企画・運営、ひまわりキッズ館ではレクリエーションを中心にワークトレーニングを指導しています。ワークトレーニングは一人ひとり内容が違い、プリントで塗り絵をしたり、字を書く練習、計算問題などを行います。

自分たちには当たり前でも、利用者の中では違う時もある

仕事のやりがいは、「利用者が目標を達成したいと自分に相談してくれて、それが少しでもできるようになった時、とても喜んでくれるので自分も嬉しくなります。自分たちは当たり前だと思っていることも、利用者にとっては当たり前ではないということを常に考えながら、小さな成長を目標に取り組むことにやりがいを感じます」。自分で顔を洗ったことがない、化粧をしたことがない、レクリエーションをしたことがないという利用者に、同施設では様々な体験を提供しています。

洗顔や化粧は、おしゃれタイムを設けて実際に体験します。レクリエーションでは、輪投げやストローを使った早飲みなどの競技を行う「ひまリンピック♪♪」を年一回開催、「やりたいことキャンペーン♪♪」では買い物、映画館での映画鑑賞など、利用者の希望を聞いて実施します。コロナ禍で年１回の日帰り旅行が中止となったため、旅行はリモートで楽しみました。「ハワイにリモートで行って観光し、移動販売のハンバーガー屋さんに施設に来てもらいハワイ気分でハンバーガーを食べました。みんなで一緒に準備をすることから楽しみが始まっています」と、好評だったイベントを振り返ります。

福祉の仕事の魅力は「助け合い」

仕事で大変だと感じることは、突発的な行動に対する対応で、常に一人ひとりを気にかけているそうです。「それぞれの利用者に目標や課題があり、どうしたら同じ場所にみんなで一緒にいられるかなど悩んだ時には先輩に相談します。自分にできないことや得意でないことをこなしているのを見るとキャリアを感じます。職員間ではもちろん、利用者も一人ひとりが協力しないとできないことが多いので、助け合いというところに福祉の仕事の魅力を感じています」。

まず一歩を踏み出すことから始めよう

「利用者と関わり話を聞くことが多いので、聞き上手の人が福祉の仕事に向いている」と言う吉田さん。「何を訴えているのかコミュニケーションが難しい方もいるので、話ができないときは表情や仕草で理解していきます。表情を見れば、喜んでいるとかあまり好きじゃないとかがわかります」と相手と関わること、理解することの大切さを話します。福祉の仕事に興味を持つ方へのメッセージとして、「まずは最初の一歩として、障がい者と触れ合う体験やボランティアから始めてください。障がい者が運営するお店に行ってみたり、笠間市では障がい者と地域住民の運動会が開催されていますので、参加してみてください」とのことです。

今後の目標は、「障がいのある方への理解をさらに深めていくこと」という吉田さん、利用者が好きなもの興味があることを見たり体験したりして、そこからコミュニケーションが始まるのだそうです。「この仕事はずっと続けていく、みんなと一緒に楽しむことが好きだから」と話すきらり人です。